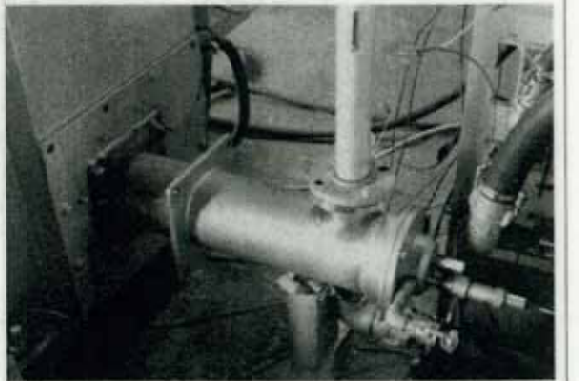




正英製作所(大阪市平野区、細見多社長、06・6706・6868)の小型炉用フィン付熱交換器内蔵バーナー「STB-W」は、熱交換器を塔内に組み込み、通常は外部に捨ててしまつた排熱を回収する。エネルギー効率を高めることで、燃料費が節約できる。アルミニウムなどの溶融

**小型炉用フィン付熱交換器内蔵バーナー**

の搬送に使う取鍋の加熱用に1999年に開発した「STB」がSTB-Wの前身だ。従来、取鍋の予熱の排熱は回収することなく捨てていた。「名古屋地区の顧客から排熱を再利用できたら」という要望が寄せられ、開発した(吉岡良樹執行役員燃焼機器営業部長)のSTBだ。



小型炉用フィン付熱交換器内蔵バーナー「STB-W」の形状を工夫し、従来炉比でガス消費量が約30%削減できる。試行錯誤の末、内部にらせん状の羽根を付け、「大需要先である日本の自動車関連メーカーは投資に慎重。しかし、中国資本の地元メーカーは設備投資を増やしており、これから有望(吉岡執行役員)と、地法人上海正英で、熱交換器部分を耐熱鋳造で生産し、コストダウンを図る。

**排熱再利用しCO2低減**

日本機械工業連合会会長賞 もっと高性能な排熱活用が、高価な上に維持費もかかるバーナー(リジエネバー)はすでに存在する。できるような費用対効果の

化に取り組んでいる広島が、中小企業でも導入できるような費用対効果の効率を上げるため熱交換器。炉の更新時はまた採用

速エンジンを供給する。これに伴い、年間120台(約100万馬力)の生産能力を持つエンジン工場を今夏に建設する。三菱重工が中国企業に同技術を提供するのは3社目。すでに大型や中型の同技術を供与しており、今回の契約で自社技術を幅広く供給できる体制を敷く。

**サトキン**

**鉄道車両部品に進出**

**パンタグラフ向け 子会社から受注**

【前橋】サトキン(群馬県高崎市、大塚康幸社長、027・320・3655)は、鉄道車両向け部品事業に参入した。国内電機メーカー子会社からパンタグラフの部品を受注。新幹線などの高速鉄道は北米や新興国で巨大市場が形成されつつあり、日本企業も人札に乗り出している。サトキンはこれを追い風に、鉄道部品分野を中長期的には売上高1億円規模に育てる方針。

サトキンは銅合金製部品の製造を手がけており、仕上げ加工は外注。今回の発注元の企業は増産により、既存の協力会社の生産能力では追いつけなくなつたため、商社の仲介でサトキンが受注した。同部品の実績を足がかりに受注拡大を狙う。

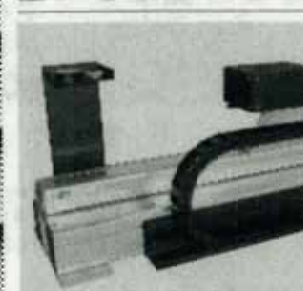
拠点海外移転するリスクは小さいとみられ、鉄道部品を今後の主力事業に育てる。サトキンは、産業設備や船舶向けなどの大型の鋳造品を得意としている。

**エンジン技術を供与**

**三菱重工、中国社と契約**

三菱重工は22日、中国・浙江省の船用エンジンメーカーである浙江洋浦重機(寧波市)と船舶用低速ディーゼルエンジン技術の供与する契約を結んだと発表した。浙江洋浦重機は同エンジン

の製造・販売・サービスの権利を譲り受け、2010年中に初号機を納める。5000-2万重量クラスの貨物運搬船舶向けに中国で営業する。供与するのはシリンドラ口径が370、以下



【立川】ニレコはリチウムイオン電池などの二次電池各種の電極基材の両面に塗されたカーボン膜の厚みを、片面の膜厚だけ測れる測定器を3月に発売する。電極の製造で重要な工程になるカーボン膜の膜厚管理が片面ごとに実現。製造工程に必要となる測定器を3月に発売する。

**片面ごとの測定可能**

**カーボン膜厚 ニレコ、電極基材向け装置**

ラインでの多点計測ができるように測定時間は0.1秒と短く、電極性能の向上に役立てられるとみて需要を開拓する。

市場で一般的な放射線厚み計は両面の膜厚を同時に計測してしまい、片面だけの測定はできない。原理になる。このため、面ごとの品質管理ができる利点や面倒な放射線管理が不要になることを電機メーカーにも営業し、製品への標準搭載を働きかける。

**食文化創造の脇役たち**

**機械メーカー、こんな顔**

増幸産業(埼玉県川口市、増田幸也社長、048・222・4343)は超微粒粉砕機の専門メーカー。石臼式の機械に

おける国内販売シェアは70%。増田社長は「スーパー調味料など、スーパーマーケットの加工食品売り場には必ず一つは当社の機械を使った商品があるはず」と自信を見せる。



1965年の発売から累計で約6000台を売

**食材別に超微粒粉砕加工**

式粉砕機は原料すりつぶし、無気孔の砥石を開発して用いる砥石の気孔に細菌などがたまる危険性を低減させた。砥石の強度も大きく、向かってすりつぶすナノメートル単位で、野菜、肉、

シリンドラごに圧力や作動時間、ストローク回数を登録できる。2本同時試験も可能。シリンドラ内部の油の漏れも検知できる。シリンドラに注入する油は内蔵の濾過装置で処理し、繰り返し使える。試験できるシ

**増幸産業**



増田 社長

おける国内販売シェアは70%。増田社長は「スーパー調味料など、スーパーマーケットの加工食品売り場には必ず一つは当社の機械を使った商品があるはず」と自信を見せる。

**機械・航空機**

**油圧シリンドラ試験装置**

【名古屋】高須油機工業(愛知県刈谷市、加藤秀史社長、0566・22・7121)は、油圧シリンドラ用の耐久・耐圧試験装置(写真)を発売した。試験する圧力は、20MPaまで設定可能。試験する圧力は、20MPaまで設定可能。試験する圧力は、20MPaまで設定可能。



高須油機工業